

ブドウ「シャインマスカット」の収穫時期拡大に有効な果実袋利用法

果実品質が優れ、嗜好性の高い「シャインマスカット」は、果皮の着色に日照を要しない黄緑色品種で、樹上での日持ち性も良い。そこで、遮光率の異なる果実袋を用いることで、収穫、販売時期の拡大が可能なことを明らかにした。

内容

6年生樹を用い、2013年7月10日にK社製の極薄（白、遮光率30.8%以下同）、白（53.8%）、上部オレンジ（上部53.8%、下部白42.3%）、青（69.2%）、緑（70.8%）、青緑（88.5%）の各袋で被覆した。なお、棚上の副梢は1葉で摘心した。

夜間や曇天日の袋内の気温には袋の種類で差はなかったが、晴天日の日中は青緑や上部オレンジがやや高く、逆に青や緑が低かった（データ略）。

果粒重は、いずれの袋も9月中旬まで増加した後、時期、袋の種類で一定の傾向はなかった（データ略）。果皮色のカラーチャート値*は、調査期間中いずれの袋もおおむね上昇する傾向を示し、袋の種類では極薄が最も高く、9月中旬には黄色化を示す4に達していた（図1）。次いで、白や上部オレンジ、さらに青、緑の順に低下し、青緑が最も低かった。なお、カラーチャート値5に近づくと、果粒がやや軟化した。

果汁の糖度は、9月中旬にはすべての試験区で18度程度に達した後、11月上旬まで上昇し、袋の種類では極薄、白、上部オレンジが比較的高かった（図2）。酸含量は、8月下旬には可食できる0.6%以下になり、さらに9月中旬まで大きく低下したが、その後は明らかな変化はなく、袋の種類では極薄や白がやや低かった（データ略）。

以上のことから、「シャインマスカット」の成

熟期は果実袋の遮光率に影響され、果皮色から判断して8月下旬の早期収穫を目指す場合は白色、9月収穫は緑か青色、さらに10月収穫には青緑色が適する。

普及上の注意事項

棚上の副梢葉数によっても成熟期は影響される。果皮の黄色化が進むと果皮褐変症が発生することがある。貯蔵養分の消耗や霜害の危険性から収穫期の遅延は10月までとする。

水田 泰徳（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

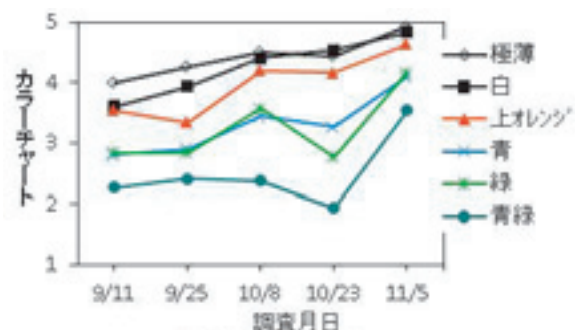


図1 果皮色の推移

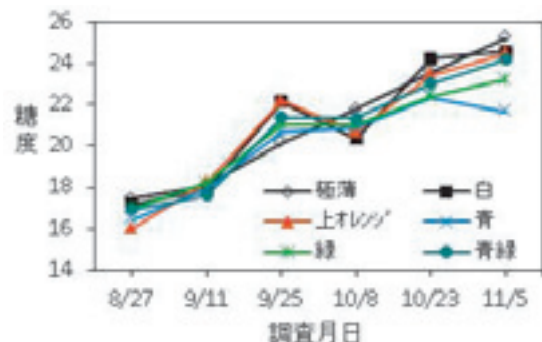


図2 糖度の推移

*：山梨県総合理工学研究機構作成、数値が大きいほど緑色→黄色で、3（明るい黄緑色）程度を出荷基準とする産地が多い。